

広労発基 0325 第1号

平成 28 年 3 月 25 日

建設業労働災害防止協会広島県支部長 殿

広島労働局長



### 職場における熱中症予防対策の重点的な実施について

平素から労働行政の運営に格別の御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、過去 10 年間(平成 18 年～平成 27 年)の広島労働局管内の職場における熱中症による死傷災害の発生状況は別添 1 のとおりですが、年によって差はあるものの、3 人～19 人の範囲で増減を繰り返しています。

また、この間に別添 2 のとおり 4 人が熱中症により死亡しています。

発生状況等を分析すると、7 月と 8 月に集中して発生していること、14 時台以降に急増していること、経験年数が浅い労働者の発生が目立つこと、高齢労働者の発生が多いこと等の特徴が認められました。

熱中症は、特に、体温調節の働きが十分でない気温上昇期や高齢者に発生しやすく、予防のためには、水分・塩分の補給をはじめ、休憩場所・休憩時間の確保、湿度に対する注意、高齢労働者への配慮、不規則な生活リズムを改める、熱中症予防に係る労働者教育などの対策を行うことが必要です。

気象庁の暖候期予報によると、本年 6 月から 8 月の中国地方では、「夏・梅雨の時期ともに降水量は平年並みか高い見込み。」「夏の気温は高い見込み。」とされており、熱中症による労働災害の発生が懸念されるところです。

つきましては、貴職におかれましても、早い時期から職場の熱中症予防対策に取り組んでいただきますとともに、別添リーフレットを活用する等により、会員への周知について御協力をいただきますようお願い申し上げます。

職場における熱中症による死傷災害の発生状況

1 熱中症による死傷者数の推移（平成 18 年～平成 27 年分）

過去 10 年間の職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の上業務上疾病者の数（以下「死傷者数」という。）をみると、年によって差はあるものの、3 人～19 人の範囲で増減を繰り返している。

その間の死亡者数は 4 人であり、平成 19 年、平成 20 年、平成 22 年及び平成 27 年に発生している。

熱中症による死傷者数の推移（平成 18 年～平成 27 年）（人）

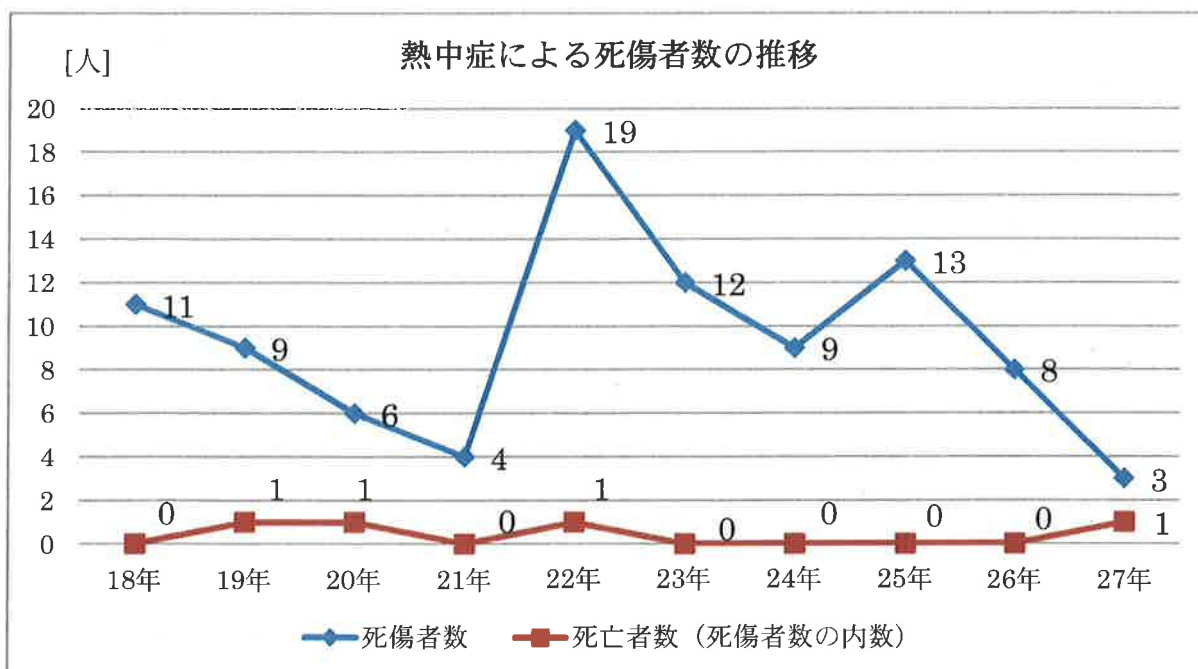
18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
11	9	6	4	19	12	9	13	8	3
(0)	(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。

参考) 全国における熱中症による死傷者数の推移（平成 18 年～平成 27 年）（人）

18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
269	378	280	150	656	422	440	530	423	463
(17)	(18)	(17)	(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(32)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。 \*27 年度は速報値



## 2 業種別発生状況（平成18年～平成27年）

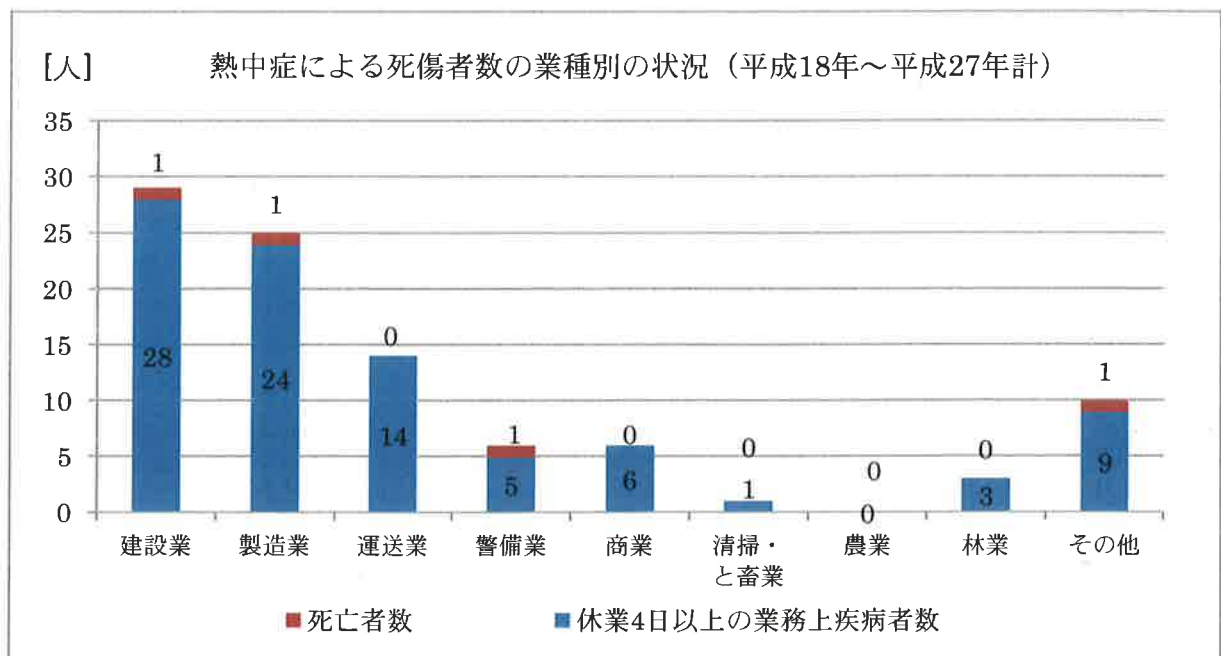
過去10年間の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生している。これらの2業種で全体の約6割(57.4%)を占めている。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成18年～平成27年）

(人)

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
平成18年	3 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	11 (0)
平成19年	5 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (1)
平成20年	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (1)
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	4 (0)	5 (1)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	19 (1)
平成23年	3 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (0)
平成24年	3 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	5 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	13 (0)
平成26年	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)
計	29 (1)	25 (1)	14 (0)	6 (1)	6 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	10 (1)	94 (4)

※ ( ) 内の数値は死亡者数で内数である。



### 3 月・時間帯別発生状況

#### (1) 月別発生状況（平成18年～平成27年）

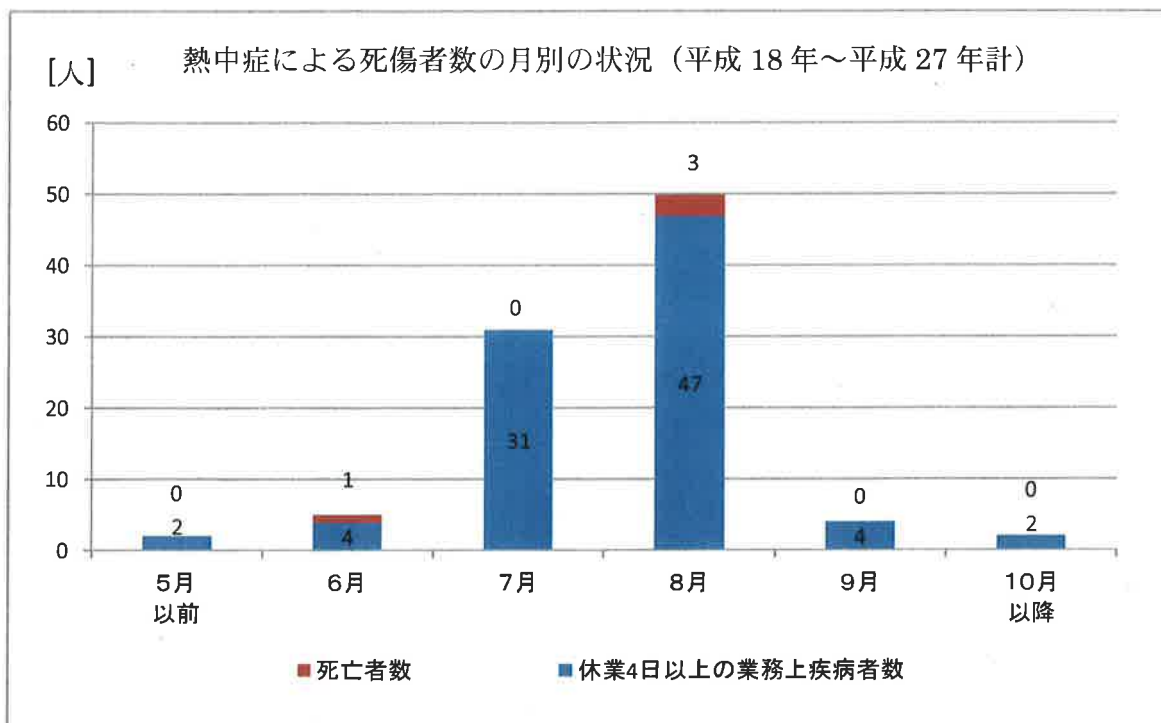
過去10年間の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の9割近く(86.2%)が7月及び8月に発生している。

熱中症による死傷者数の月別の状況（平成18年～平成27年） (人)

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
平成18年	0 (0)	0 (0)	2 (0)	8 (0)	0 (0)	1 (0)	11 (0)
平成19年	0 (0)	1 (0)	0 (0)	6 (1)	2 (0)	0 (0)	9 (1)
平成20年	0 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)
平成21年	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	0 (0)	0 (0)	4 (0)	13 (1)	1 (0)	1 (0)	19 (1)
平成23年	0 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)
平成25年	1 (0)	0 (0)	6 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
計	2 (0)	5 (1)	31 (0)	50 (3)	4 (0)	2 (0)	94 (4)

※ 5月以前は1月から5月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

※ ( ) 内の数値は死亡者数で内数である。



(2) 時間帯別発生状況（平成18年～平成27年）

過去10年間の時間帯別の死傷者数をみると、14時台から急増し、18時台以降まで高止まりの状態が発生している。

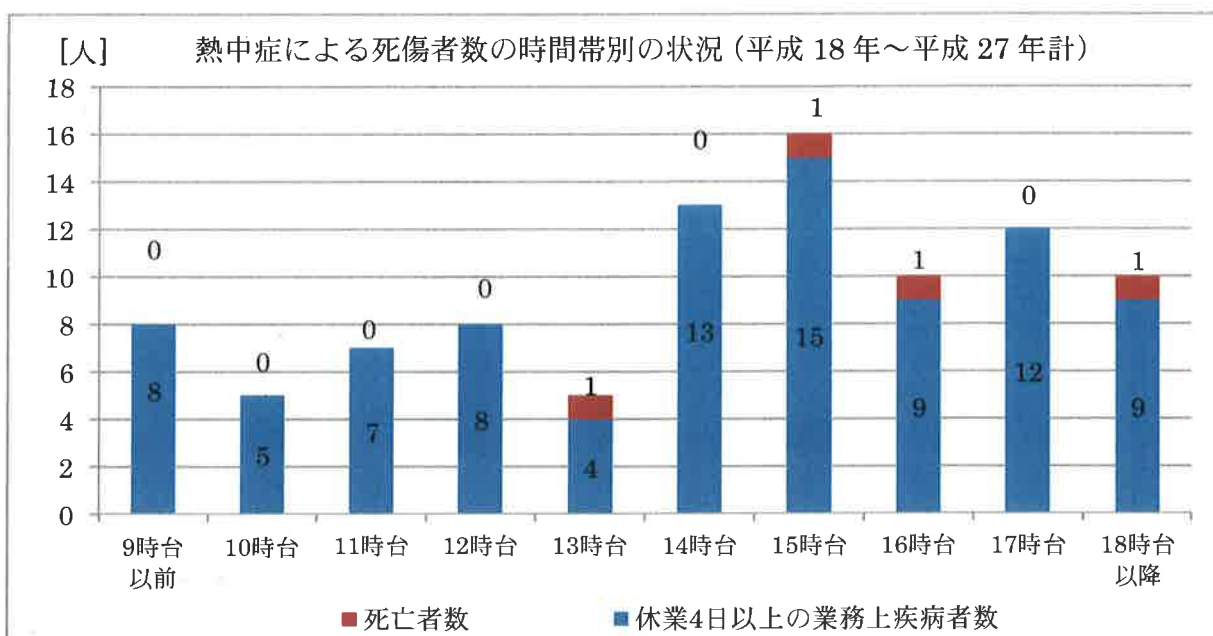
作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、病院へ搬送されるケースも散見される。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況（平成18年～平成27年） (人)

	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計
平成18年	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	11 (0)
平成19年	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	9 (1)
平成20年	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	6 (1)
平成21年	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)
平成22年	3 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (0)	3 (0)	19 (1)
平成23年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (0)
平成25年	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
計	8 (0)	5 (0)	7 (0)	8 (0)	5 (1)	13 (0)	16 (1)	10 (1)	12 (0)	10 (1)	94 (4)

※ 9時台以前は0時台から9時台まで、18時台以降は18時台から23時台までを指す。

※ ( ) 内の数値は死亡者数で内数である。



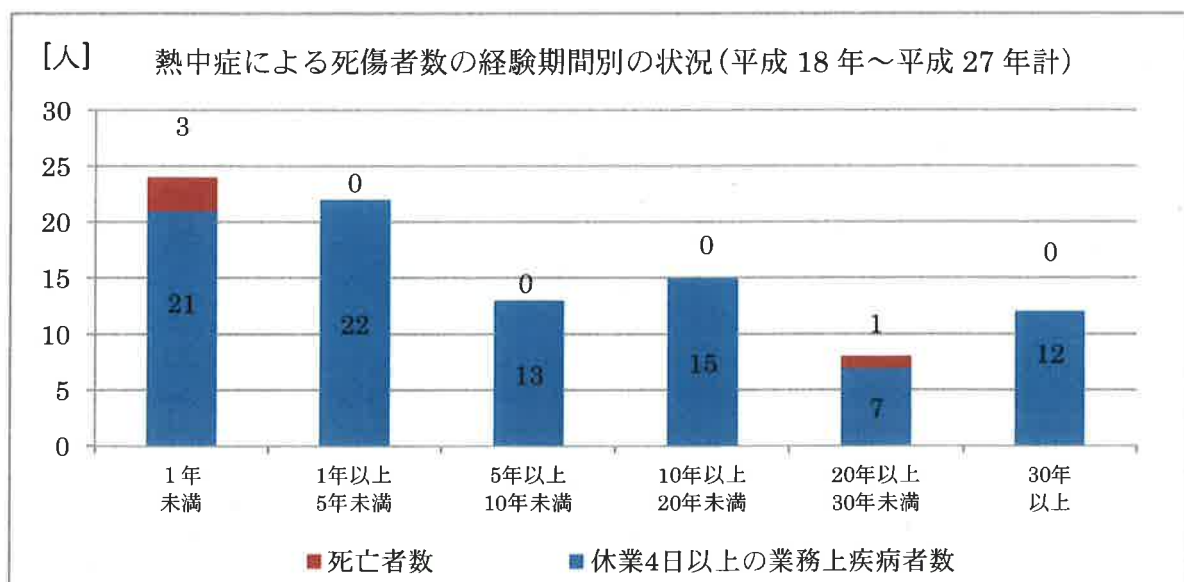
#### 4 経験年数別発生状況（平成18年～平成27年）

過去10年間の経験年数別の死傷者数をみると、1年以上5年未満が24件と最多であり、次いで1年未満の22件が続く。5年未満までの合計46件で全体の約5割(48.9%)を占める。

熱中症による死傷者数の経験期間別の状況（平成18年～平成27年）（人）

	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	計
平成18年	2 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	11 (0)
平成19年	3 (1)	5 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)
平成20年	3 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (1)
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	4 (0)	5 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (0)	19 (1)
平成23年	3 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	12 (0)
平成24年	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	3 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	13 (0)
平成26年	2 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
計	24 (3)	22 (0)	13 (0)	15 (0)	8 (1)	12 (0)	94 (4)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。





5 年齢別発生状況（平成18年～平成27年）

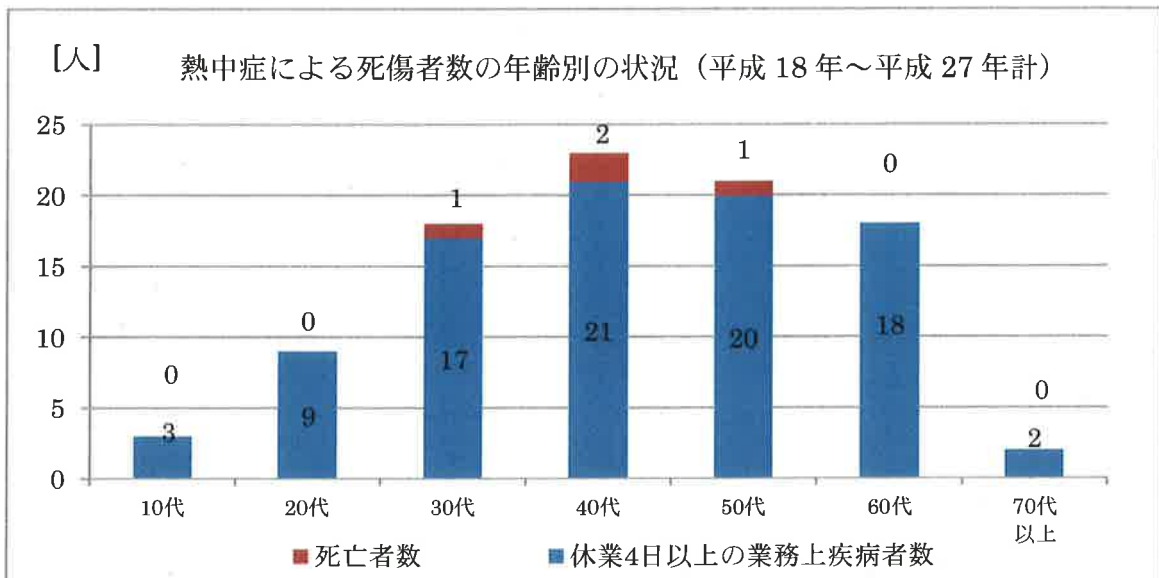
過去10年間の年齢別の死傷者数をみると、20歳代が9人と少ないが、30歳代以降は平均的に発生している。

労働力人口を考慮すると60歳代の18件は多いと思われるため、高齢労働者への配慮が必要。

熱中症による死傷者数の年齢別の状況（平成18年～平成27年） (人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
平成18年	0 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	11 (0)
平成19年	2 (0)	1 (0)	4 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)
平成20年	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	0 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (1)	4 (0)	6 (0)	1 (0)	19 (1)
平成23年	0 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	0 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (1)
計	3 (0)	9 (0)	18 (1)	23 (2)	21 (1)	18 (0)	2 (0)	94 (4)

※ ( ) 内の数値は死亡者数で内数である。



## 広島労働局管内における熱中症による死亡災害の概要

(平成 18 年から平成 27 年)

区分		災害発生状況	
発生年月日	平成 19 年 8 月	<p>被災者は建屋解体作業の補助作業中、体調不良により休憩していた。数分後に身体が震えた状態で意識消失となったため病院に搬送したが、翌日死亡した。</p> <p><u>雇入れ時の健康診断の実施なし。休憩と水分補給に問題なし。前日は体調不良により早退。気温 34℃・湿度 65%、現場は日陰がなく直射日光を受けながらの作業。</u></p>	
業種	建設業		
被災者	性別		男
	年齢		30 代
	職種		解体工
発生時刻	15 時 45 分		
経験年数	0 年 (7 か月)		
発生年月日	平成 20 年 6 月	<p>被災者は船舶機関室内の掃除と機器養生の補助作業等を実施していた。作業終了後、幻覚とけいれん症状が現れたため病院に搬送したが、6 日後に搬送先の病院で死亡した。</p> <p><u>塩分補給の対策なし。雇入れ時に熱中症の教育なし。気温 25℃・湿度 92%であり、体温調節が十分でなかったことも影響。</u></p>	
業種	造船業		
被災者	性別		男
	年齢		40 代
	職種		塗装
発生時刻	18 時 00 分		
経験年数	0 年 (5 日)		
発生年月日	平成 22 年 8 月	<p>被災者は間口 8.8m、奥行き 18m の平屋建て作業場の屋内でヤスリ掛け作業を行っていたが、口から泡を吹きはじめる等の症状が現れたため病院に搬送したが、翌日死亡したもの。</p> <p><u>窓はすべて開放していたが、無風状態であり通風が不十分。水分摂取・熱中症教育も不十分。気温・湿度は不明。</u></p>	
業種	機械器具製造業		
被災者	性別		男
	年齢		40 代
	職種		研磨
発生時刻	16 時 30 分		
経験年数	25 年		
発生年月日	平成 27 年 8 月	<p>被災者は土木工事現場において、車両等の交通誘導業務を行っていたが、体調不良の様子につき日陰で休憩させた。約 10 分後に様子を見に行ったところ、倒れていたため病院に搬送したが、当日の夜死亡したもの。</p> <p><u>塩分補給等の対策あり。気温 34℃・湿度 45%程度。災害発生前日は、別の場所で午前 3 時まで警備業務に従事。睡眠不足による疲労も窺われる。</u></p>	
業種	警備業		
被災者	性別		男
	年齢		50 代
	職種		車両等の誘導
発生時刻	13 時 50 分		
経験年数	0 年 (9 か月)		